

平成29年度学校保健安全委員会の報告

場 所 日方小学校 ランチルーム
日 時 平成30年 1月23日（火）19:30～21:00
参加者 保護者9名 教職員9名 その他4名 計20名
講 師 海南省教育委員会青少年センター相談員 倉本 健吾 氏
演 題 「スマホ世代 SNS 世代の子供たちとどう向き合うか」

【講演内容】

- 若者が使用しているメディアの種類や使用状況、その特徴について
若者のテレビの視聴時間が減っている。50代60代の視聴時間の6割程度しかない。反対にスマートフォンやタブレットに触れる時間は年々長くなっている。かつてテレビは家族で見ることが多く、親が管理しやすかったが、今は個々にスマホを持っており、子どもが何を見ているのか全て把握するのは難しい。
- スマートフォンやSNSの利用の現状について
LINEを使った仲間外し等、いじめやトラブルがエスカレートしやすく、発覚しにくい。インターネット上に投稿した10代の若者のうち、「悪意のある投稿」をしたことがある人は4割もいる。年代が上がれば、この比率は低くなる。若い人ほど、他人を傷つけるという認識が甘い。内容によっては罪に問われる場合や、就職や結婚に影響を及ぼす可能性がある。また、投稿した写真から位置情報やその他色々な個人情報が漏れるため、危険である。児童ポルノ被害の半数以上が中学生である。もっと危険性を知って欲しい。
- ネット依存について
和歌山県の中学生長時間ゲームプレイ率は全国1位で、全国学力学習状況調査の結果と関連しているような気がする。スマホの利用時間と数学の平均点には負の相関があった。彼らは、ゲームやSNSで承認欲求が満たされているので、さらに次の行動に駆り立てられ、「スマホ依存症」になる。それにより様々な健康被害がでている。
- 子どもたちを守るために
ルールを決めて使用させることが有効である。ルール作りには12のポイント（①占有させない（管理者は保護者） ⑤書面に残す ⑦親が模範となる ⑪親がよく知る ⑫ルールを定期的に見直す）がある。購入時に、子どもにとって有害な情報を自動的にカットしてくれるフィルタリング機能をつけてほしい。この利用率はまだ50%程度にとどまっている。子どもの行動に常に目をむけ、家庭、学校、地域が積極的に情報を共有し、子どもを見守ることが重要である。

最後に

これからを生きる子どもたちにとって、SNSを活用していくことは、不可欠である。SNSに支配されることなく、有効に利用するための知識を保護者の目の届く小学生の時期に教える必要性を強く感じる。保護者や教師がSNSについての研修を深め、危機感を高め、具体的な危険を子どもに教える必要がある。小さい頃から人との関わりの経験を多くもつことで人の立場に立って考えられる力やSNSを介さないコミュニケーション能力を養うことも大切である。